



コモ ヴァイ
COMO VAI?
ロザーネです



(COMO VAI?=ポルトガル語で「ごきげんいかが?」)

第11回 真夏のクリスマス

まちの活気は同じ

ブラジルは夏真っ盛り！海の近くに別荘を持つ人たちが、長い夏休みをそこで過ごすために、掃除をしたり、家具を運びこんだりする時期がやってきました。日本にいる私は、ブラジルとは反対に寒いクリスマスを迎えます。

日本でも、12月になると、どのお店もクリスマスの商品でいっぱいですね。クリスマスについて調べると「イエス・キリストの生誕を祝う日で、太陽の再生を祝う“冬至の祭”がキリスト教化されたもの」などがあります。本来の意味はほとんどなくなってしまっているようにも感じますが、お店やまちが活気づくのは日本もブラジルも同じです。

汗が流れるサンタクロース

今や、クリスマスになくてもならないサンタクロース。ブラジルの暑いクリスマスでも、サンタクロースは同じです。赤い服、黒いブーツ、赤い帽子に白いひげ。汗を流しながら働くブラジルのサンタクロースたちですが、そのほとんどは定年退職した年配の人たちで、なかにはそのためにひげを伸ばした人もいます。

12月になると、まちの至るところでサンタクロースを見かけます。サンタクロースになった路線バスの運転手さんは、小さな扇風機を回し、短パン姿で運転しています。こうした運転手さんは、ボランティア活動の一環として、バスの中に大きな箱を置き、貧しい家庭や施設で暮らす子どもたちに渡すプレゼントの寄付を募っています。箱いっぱい集まったおもちゃなどのプレゼントは、やはりサンタクロースの姿の運転手さん自身によって、子どもたちに配られます。12月には、子どもたちの笑顔が見たくて、たくさんのサンタクロースが活躍するのです。

1年で最も幸福な時期

ブラジルでは12月25日は祝日で、大人も子どもも学校や仕事を休んでクリスマスを楽しむのが一般的です。

けれども日本では、25日は祝日ではありません。日本にいるブラジル人の家庭では大人は仕事に行ってしまうので、子どもたちは家族そろってクリスマスを祝いたい気持ちを我慢しなければなりません。

でも、夕ごはんの時間になれば日本でも家族がそろって、ブラジルでクリスマスを迎えるときと同じ、特別料理を用意して食事を楽しむ家庭もあります。PANETONE (色鮮やかなドライフルーツを入れて焼いたパン)、FRANGO・ASSADO (ロースト・チキン)、FRUTAS (果物)、SALADA (サラダ)、CHAMPANHA (シャンパン) などです。子どもたちにとっては、食べ物だけでなくプレゼントも楽しみです。

クリスマスが終わりお正月を迎えると、日本の子どもたちと同じように、日系人の家庭ではお年玉が楽しみです。12月はどこでも、1年のうちで最も幸福な忙しさに満たされる月と言えそうです。

(彦根市国際交流員 田尾ロザーネ)